

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は項目の最初から順番に行う必要はありません。点検し易い項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めてください。
- 自己評価は外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I・理念に基づく運営	22
1・理念の共有	3
2・地域との支えあい	3
3・理念を実践するための制度と理解と活用	5
4・理念を実践するための体制	7
5・人材の育成と支援	4
II・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1・相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2・新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1・一人ひとりの把握	3
2・本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3・多機能性を活かした柔軟な支援	1
4・本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1・その人らしい暮らしの支援	30
2・その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V・サービスの成果に関する項目	13

合計 100

○ 記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか・実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後改善したり、更に工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があればそれを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点]

日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○ 用語の説明

家族等 = 家族・家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人等を含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合はその人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員・非常勤職員・パート等事業所で実務に尽くす全ての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等・かかりつけ医・包括支援センターの職員等事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○ 評価シートの説明

評価調査票はプロセス評価の項目(No1～No87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No88～No100)の2種類のシートに分かれています。

記入する際は2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 磐田かつらぎの家
(ユニット名)	3号館
所在地 (県・市町村名)	静岡県磐田市岩井2070-9
記入者名 (管理者)	永井清二
記入日	平成20年9月7日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

← 取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいる事も含む)
I 理念に基づく運営				
1・理念と共有				
1	○ 地域密着型サービスとしての理念			
	地域の中でその人らしく暮らし続ける事を支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	かつらぎの家としての理念は提示している。	○	地域密着型サービスの理念は作っていない。
	○ 理念の共有と日々の取り組み			
2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	運営理念を職員の目の付く所に提示し取り組んでいる。		
3	○ 家族や地域への理念の浸透			
	事業所は、利用者が地域の中で暮らし続ける事を大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	かつらぎの家での催し物を回覧に載せ参加してもらうように取り組んでいる。		地元の文化展に入居者の作品を出品したりして地元で暮らしている事をPRしている。
2・地域との支えあい				
4	○ 隣近所とのつきあい			
	管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声を掛け合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的な付き合いが出来る様に努めている。	散歩の時に挨拶をしたり、近所の店へ買い物に行った時に話をしている。		3ヶ月に1回のペースでかつらぎの家だよりを作成して地域にPRをしているが、これといった成果はない。
5	○ 地域との付き合い			
	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地元の祭り、催し物に参加している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいる事も含む)
6	<p>○ 事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて地域の高齢者等の暮らしに役立つ事がないか話し合い、取り組んでいる。</p>	地域に対し事業所としての貢献への取り組みはしていない。	○	自治会や老人会と話し合い、取り組んでいきたい。

3・理念を実践するための制度の理解と活用

7	<p>○ 評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	外部評価を取り入れる事により問題点や気付いていなかった事を改善するよう少しずつではあるが実施している。		
8	<p>○ 運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	会議の中で今後取り組んでいく課題を示し、それについて自治会や家族に意見を求め、状況報告と合わせて話し合いをしている。		
9	<p>○ 市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	磐田市事業者連絡会に参加している。		他のグループホームの取り組みを聞き出して参考に出来る所を取り入れていきたい。
10	<p>○ 権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用出来る様支援している。</p>	成年後見制度については1件取り扱いがあり、管理者が対応・勉強している。		他の職員も勉強する機会を作っていきたい。
11	<p>○ 虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされる事がないよう注意を払い、防止に努めている。</p>	事業者としての取り組みは出来ていないが新聞等の関連記事については個々に関心を持って注意を払い防止等に努めている。		職員全体に理解出来る取り組みをしたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいる事も含む)
4・理念を実践するための体制			
12	<input type="radio"/> 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用者家族には入所時重要事項説明書、契約書を読んで理解をしてもらっている。控えを一部家族に渡している。	
13	<input type="radio"/> 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者との会話の中から意見を聞いたりしている。毎月一度訪問がある介護相談員と話ができる場を設けてある。	
14	<input type="radio"/> 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	家族に関しては面会等が少ない家族には月次報告書にて利用者の暮らしぶり、健康状態を伝え金銭管理については毎月請求書と一緒に領収書と出納帳のコピーを送付している。	
15	<input type="radio"/> 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見・不満・苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議等の場で意見などを聞き運営に反映している。	
16	<input type="radio"/> 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎週火曜日に各階のリーダーと館長・ホーム長・ケアマネージャーでミーティングをし、毎月第三火曜日を全体ミーティングをして職員の意見を聞いている。	
17	<input type="radio"/> 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応が出来る様、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	現状ギリギリの職員数で十分な対応は出来ていない。	職員の数を増やして利用者や家族の要望に対応出来るようにしたい。
18	<input type="radio"/> 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	ホーム内の異動は1ユニットにつき1人ずつを目安にして急激な人の異動はしないようにして利用者のダメージは少なくしている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいる事も含む)
-----	---------------------------------	------	---------------------------------

5・人材の育成と支援

19	<p>○ 職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていく事を進めている。</p>	<p>実務研修やリーダー研修に積極的に参加させるようにしている又、法人内で研修は設けてもらい受ける研修も本人の勉強したい項目を受けてもらうようにしている。</p>	○	<p>今後は外部の研修にも積極的に受けてもらう体制を創っていきたい。</p>
20	<p>○ 同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会・相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>単発的には交流あるが勉強会・相互訪問等はしていない。磐田市のケアマネージャーの勉強会にはケアマネージャーが出席している。</p>		
21	<p>○ 職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>取り組んでいない。</p>		
22	<p>○ 向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績・勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働ける様に努めている。</p>	<p>毎年3回自己啓発の目的で自主的に勉強したい事に対して奨励金制度を設置している。</p>		

Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1・相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	<p>○ 初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っている事、不安な事、求めている事等を本人自身から良く聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居前に自宅又は病院等にケアマネージャーと訪問して本人と面接し希望等を聞いている。</p>		
24	<p>○ 初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っている事、不安な事、求めている事等を良く聞く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居相談時や入居時の面接でどんな事で困っているのかを聞き又、どんな事を希望するか。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいる事も含む)
25	○ 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」 まず必要としている支援を見極め、他のサービス 利用も含めた対応に努めている。	入所前に本人の今の生活の様子は病院又は自宅等に足を運び ケアマネージャーと併に検討し病院関係・家族・他のサービス利 用の状況に応じて関係者に情報を貰っている。		
26	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の 利用者、場の雰囲気徐々に馴染める様 家族等と相談しながら工夫している。	家族と入所時に話をして利用者の個性を生かしたサービスをす るように入所してしばらくしてもう一度本人家族とサービスについ て検討するようにしている。		

2・新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

27	○ 本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、 一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から 学んだり、支え合う関係を築いている。	日常の会話の中に新聞・テレビ等から話題を拾い、その中でいろ いろな考えや昔話を聞き、職員が参考にしている。		
28	○ 本人を共に支え合う家族との関係 職員は家族を支援される一方の立場におかず、 喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく 関係を築いている。	家族の面会時には家族と職員が話がしやすいようにこちらから 話しかけて利用者の様子等を話をして家族からの情報等を参考 にしている。		
29	○ 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、 より良い関係が築いていける様に支援している。	面会時に家族と利用者がより良い会話ができる様な雰囲気を作 る様に努力している。		
30	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や 場所との関係が途切れない様、支援に努めている。	中々出来ていない。一部手紙の遣り取りはしている。		
31	○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず 利用者同士が関わり合い、支え合える様に努めている。	利用者同士が話し合い易い人、場所などを観察しながら職員が 話の中に入ったりにして孤立しないような努力はしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいる事も含む)
32	○ 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らない付き合いを大切にしている。	退去する場合、次の施設等に関する相談とかその後の様子等も家族の方と連絡を持っている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

33	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望・意向の把握に努めている。困難な場合は本人本位に検討している。	本人の希望される生活の安定、暮らしの場の提供が出来る様努力している。		
34	○ これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	3ヶ月毎に定期的に行っている、これまでの暮らしを把握し、出来る限り住生活環境に近い暮らしが出来る様努めている。		
35	○ 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	入居時家族(本人)から聞き取りをして安心して暮らせる様努めている。		

2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について本人・家族・必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	毎月一度ミーティングをし一人一人に対してケアプランに添ったケアが出来る様努めている。		
37	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応出来ない変化が生じた場合は本人・家族・必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	3ヶ月に一度介護計画の見直しをして家族に報告、本人にとって一番良い暮らしが出来る様職員全員で関わっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいる事も含む)
38	<input type="checkbox"/> 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気付きや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護記録に記入レベル低下・身体変化等あった場合は家族に連絡説明をする。		

3 多機能性を活かした柔軟な支援

39	<input type="checkbox"/> 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	グループホームで出来る範囲の事で支援をしている。		
----	---	--------------------------	--	--

4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

40	<input type="checkbox"/> 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア・警察・消防・文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域の文化祭・作品を出品させて頂き高校生のボランティアの受け入れを行っている近隣の店主との交流を作品作りで行っている。	<input type="checkbox"/>	ボランティアをもっと活用し消防・教育文化機関等と協力しながら支援している。
41	<input type="checkbox"/> 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	他のサービス活用も段々考えていきたい、今の所支援体制は出来ていません。	<input type="checkbox"/>	介護タクシーの利用はしている。美容院等も近所の店を利用支援している。
42	<input type="checkbox"/> 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	必要に応じて相談させて頂いている。		
43	<input type="checkbox"/> かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られなかったかかりつけ医と事業所の関係を築きながら適切な医療を受けられるように支援している。	医師は必要に応じて往診やアドバイスをしてきている。信頼関係は出来ている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいる事も含む)
44	○ 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら職員が相談したり利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	家族と相談をし、Drに治療を受けられる様支援している。場合によっては家族も気楽に話しDrから支援して頂ける様に成っている。		
45	○ 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護資格を持った職員が居るので相談、日常の健康や管理医療活用支援している。		
46	○ 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、出きだけ早期に退院出来るように病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいはそうした場合に備えて連携している。	病院関係者との情報交換や相談に努め家族への連絡も欠かさず行っている。		
47	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について出来るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	家族とDr相談、全員で方針を共有している。		
48	○ 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために事業所の「出来る事・出来ない事」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	Dr相談出来る限り毎日安定した暮らしが送れる様支援、家族ともその都度話し合い出来ない様であれば早期に入院出来る様にしている。		
49	○ 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている。	自宅復帰の場合には家族と話し合い、サマリ・介護サマリを作成し情報を送付している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいる事も含む)
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉掛けや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	言葉使い・声掛けには十分配慮して対応、個人情報事務所に管理、プライバシーを損ねない様になっている。	
51	○ 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	入居者の言葉に耳を傾けその都度説明、本人希望に添える様納得出来る様支援している。出来る事を進め自信を持って頂ける様にしている。	
52	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している。	その人が自分なりの生活が出来る様、出来る事を進め納得出来る生活が送れる様支援している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○ 身だしなみやお洒落の支援 その人らしい身だしなみやお洒落が出来るように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	近所の美容院等に行ったり、フロアーにて髪を染めたり、化粧をしたり、楽しんで頂いている入居者も居る。	○ 近隣とのコミュニケーションが取れている。美容室の先生も来設して頂き話が弾んでいます。趣味活動(作品作り)
54	○ 食事を楽しむ事の出来る支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	年に何度か外食を楽しんだり、お弁当を持ってお花見に行ったり、買い物に出掛けたり、片付け等も出来る方にはやって頂く機会を作っている。	
55	○ 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒・飲み物・おやつ・タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	入居者に合わせ日常楽しめる支援をしている、お酒・コーヒー・おやつ・一人一人楽しんでいる。時々お友達と共にスナック等にも行ける支援をしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいる事も含む)
56	○ 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やオムツの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄出来るよう支援している。	入居者の希望にて排泄介助、時間でトイレをすすめている。紙パンツから普通のパンツに成っている方も居る。		
57	○ 入浴を楽しむ事が出来る支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように支援している。	気の合った入居者同士で入浴出来る様気を配り湯船にて手足の運動をしている方も居る。背中を流しあえる人も居る。		
58	○ 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	休息・安眠は出来る環境にあるが、日中自由に休息しているので思うに任せない。		

(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援

59	○ 役割・楽しみ事・気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割・楽しみ事・気晴らしの支援をしている。	日常生活の中で個々の好きな事、やれる事を職員と共に行なっている。	○	洗濯物を干したり、たたんだり・食器を拭いたり、テーブルを拭いたり、カウンターまで食器を持って来たり、唄を歌ったり聴いたり、出来る事・好きな事を支援している。
60	○ お金の所持や使う事の支援 職員は、本人がお金を持つ事の大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	小口現金規定にて管理している。要望があれば本人に現金の管理をして頂き自由に買い物に行ける様に成っている。	○	一ヶ月に二度位買い物に行き、好きな物を買って来る人も居る。
61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望に沿って戸外に出かけられるよう支援している。	散歩・買い物希望に添って行っている。時々ウインドーショッピング等も行っている。		
62	○ 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	お花見・お弁当持参で外出、家族にお願いし一年に何度か家族の協力の元にお出掛けしている方も居る。	○	近隣の盆踊り大会への参加家族で旅行出来た方も居る買い物にお出掛けもしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいる事も含む)
63	○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり手紙のやり取りが出来るように支援をしている。	利用者の方への電話の取次ぎ、御家族・友人への手紙・小包等快く迅速に対応し外部との連絡が円滑に出来る様に支援している。		
64	○ 家族や馴染みの人の訪問支援 家族・知人・友人等の馴染みの人達がいつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	訪問時にフロアー・居室等でゆっくりと落ち着いた会話が出来る様な雰囲気作りを心掛け、入居者の近状況等も話し、常に交流が持てる様に努力している。		

(4) 安心と安全を支える支援

65	○ 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	個人の意志を尊重し日常生活の中での行動や要望に対して職員全員で統一した支援が出来る様に努力し身体束縛は行なっていない。		
66	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかける事の弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中フロアーでTVを観たり居室で横に成ったり縫い物編み物をしたりとプライベートな空間の確保をしており玄関も日中は開放している。		
67	○ 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	常に利用者の方の行動、所在を把握し、転倒防止等見守り重視で安全に配慮している。		
68	○ 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて危険を防ぐ取り組みをしている。	危険防止の為一人一人の状態に応じて対応している。		
69	○ 事故防止の為の取り組み 転倒・窒息・誤薬・行方不明・火災等を防ぐ為の知識を学び一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	介護支援の事故防止対策講習も全員参加で受講し防災訓練の実施、各マニュアルも作成し事故防止に取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいる事も含む)
70	○ 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	応急処置心臓マッサージは防災責任者が受講しているが他の職員は入社時ビデオは見ているが参加はしていない。		
71	○ 災害対策 火災や地震・水害等の災害時に昼夜を問わず利用者が避難出来る方法を身につけ日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年に2度あり地域住民の方の協力が得られる様会議の場を設け各居室に入居者の状態が把握出来る様に色分けしてある。		
72	○ リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	日常生活の中での危険性を御家族に説明し理解して頂くと共に出来るだけ危険の少ない対応に努め支援していく。		

(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援

73	○ 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し対応に結び付けている。	入浴前のバイタルチェック・外傷の有無・発熱等日常の行動を観察し、早期発見に努め申し送りで継続的情報を伝達し対応していく。		
74	○ 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	症状の経過、受診時の内容等の情報を職員全員で共有し服用の際必ず氏名と服用の見守り・確認をしている。		
75	○ 便秘の予防と対応 職員は便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	水分不足に成らない様に水分補給時の声掛けをし食事バランスの取れた献立に成る様に考慮し便秘気味の方には薬に頼らず乳酸菌飲料と併用し対応している。		
76	○ 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや匂いが生じないよう、毎食後一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	歯磨きの徹底、義歯の方はポリデント洗浄を行い口腔内の清潔保持に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいる事も含む)
77	○ 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保出来るよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	各入居者に合った量、水分補給は天気・日常の行動に合わせた量を摂取して頂いている。余分に訴える方には職員の情報交換により摂取量を決めている。		
78	○ 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ・疥癬・肝炎・MRSAノロウイルス等)	外出してきた場合にはうがい・手洗いを徹底している。掃除の際ハイター消毒を行なっている。		
79	○ 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	特にまな板はハイター消毒を行なっている。調理前の食材の安全チェックを実行している。		

2・その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

(1) 居心地のよい環境づくり

80	○ 安心して出入り出来る玄関周りの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみ易く安心して出入りが出来るように玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関で入口付近に花・観葉植物を置き、季節を感じて頂ける様にしている。		
81	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関・廊下・居間・台所・食堂・浴室トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用の場は明るく楽しい空間となる様工夫を重ね採光や音量にもこまめに配慮している。		
82	○ 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には独りになれたり気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	気の合う利用者同士は席を隣にし、会話を楽しんで頂いている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいる事も含む)
83	<p>○ 居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊りの部屋は本人や家族と相談しながら使い慣れたものや好みものを活かして本人が居心地良く過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>家族・家族と利用者 の写真を貼ったり趣味活動で作った作品を居室やフロアーに飾っている。</p>	○	<p>季節に応じた作品を作っていきたい。</p>
84	<p>○ 換気・空調の配慮</p> <p>気になる匂いや空気よどみがないよう換気に努め温度調節は外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>温度の調節をこまめに行い、フロアー内には、花やハーブ等置き、季節感を出している。</p>		

(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり

85	<p>○ 身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして安全かつ出来るだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>筋力低下を防ぐ様、フロアー内だけでなく天気の良い日には外気浴・散歩に出掛けている。</p>	○	<p>やれる事はやって頂ける様に食器運び・テーブル拭き等手伝って頂いています。</p>
86	<p>○ わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして混乱や失敗を防ぎ自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>居室のドア部分に顔写真を貼り、それでも分からない人には大きく苗字を書いて貼りトイレにも大きく表示し間違えないように配慮している。</p>		
87	<p>○ 建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり活動出来るように活かしている。</p>	<p>建物北側に畑を作り、野菜を栽培している。収穫時期になると入居者といっしょに収穫している。</p>		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らしの意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	① ほぼ全ての利用者の ② 利用者の2 / 3 くらいの ③ 利用者の1 / 3 くらいの ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input type="radio"/>	① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんど無い
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<input type="radio"/>	① ほぼ全ての利用者の ② 利用者の2 / 3 くらいの ③ 利用者の1 / 3 くらいの ④ ほとんど無い
91	利用者は、職員が支援する事で生き生きした表情や姿が見られている。	<input type="radio"/>	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2 / 3 くらいの ③ 利用者の1 / 3 くらいの ④ ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたい所へ出かけている。	<input type="radio"/>	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2 / 3 くらいの ③ 利用者の1 / 3 くらいの ④ ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input type="radio"/>	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2 / 3 くらいの ③ 利用者の1 / 3 くらいの ④ ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input type="radio"/>	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2 / 3 くらいの ③ 利用者の1 / 3 くらいの ④ ほとんどいない
95	職員は、家族が困っている事、不安な事、求めている事を聴いており、信頼関係が出来ている。	<input type="radio"/>	① ほぼ全ての家族と ② 家族の2 / 3 くらいと ③ 家族の1 / 3 くらいと ④ ほとんど出来ていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	<input type="radio"/>	① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない
97	運営推進会議を通じて、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input type="radio"/>	① 大いに増えている ② 少しずつふえている ③ あまり増えていない ④ 全くいない
98	職員は、生き活きと働いている。	<input type="radio"/>	① ほぼ全ての職員が ② 職員の2/3くらいが ③ 職員の1/3くらいが ④ ほとんどいない
99	職員から見て利用者は概ね満足していると思う。	<input type="radio"/>	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない
100	職員から見て利用者の家族等はサービスに概ね満足していると思う。	<input type="radio"/>	① ほぼ全ての家族等が ② 家族等の2/3くらいが ③ 家族等の1/3くらいが ④ ほとんど出来ていない

【 特に力を入れている点・アピールしたい点 】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください)

毎日自由に暮らし、楽しく過ごせる様な空間作りをし、職員・入居者が一緒に明るく生活出来る様努力をしています。